

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|-------------------------------|
| 施設所在地 | 東京都江東区東砂6-16-1 TECresidence1階 |
| 施設名 | もりのなかま保育園東砂園 |

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

日常にある物や事象に対しての探究

〈テーマの設定理由〉

普段の保育の中で日常にある物や事象に対して、特定の一つに焦点を当てることで、その物や事象を多角的な視点で捉え、より深く探究することができる。昨年度の取り組みでは、日常にある物や事象に繰り返し関わることで、子どもたちが自分なりの発見を楽しむ姿が多く見られた。今年度も同テーマを継続し、子どもの好奇心を受け止め、引き出し、主体的に関わる姿を育んでいきたいと考えた為。

2 活動スケジュール

4月「日常にある物や事象に対しての探究」～ゼリー～
5月「日常にある物や事象に対しての探究」～風船～
6月「日常にある物や事象に対しての探究」～土と砂～
7月「日常にある物や事象に対しての探究」～水～
8月「日常にある物や事象に対しての探究」～水～
9月「日常にある物や事象に対しての探究」～布～
10月「日常にある物や事象に対しての探究」～光～
11月「日常にある物や事象に対しての探究」～磁石～
12月「日常にある物や事象に対しての探究」～紙～
1月「日常にある物や事象に対しての探究」～音～
2月「日常にある物や事象に対しての探究」～ゴム～
3月「日常にある物や事象に対しての探究」～におい～

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

子どもたちが興味を持った身近な素材・・・風船・砂・布・磁石・紙・水など
それぞれが活動に取り組めるような道具・・・トレイ、紙コップ、磁石、セロハン、LEDライトなど
興味を深めるための道具・・・ライトテーブルなど
活動がしやすく、子どもたちの言葉や気づきを聞き取りやすい少人数の環境構成

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

日常にある物や事象を題材に、身近な素材に触れながら子どもが自ら興味をもって関わる活動を一年通して行った。触る、見る、聞くなど五感を使った体験を大切にしながら、「やってみたい」「もう一度試したい」と子どもが繰り返し関わる姿を尊重した。また、子どもたちの言葉や表情を写真やメモで記録し、職員間で共有・振り返りを行いながら、子どもたちの興味や姿への理解を深めた。保護者には、ドキュメンテーションを作成し、玄関掲示・ブログなどで活動の様子を共有した。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

活動では、身近な素材の変化に触れ、子どもたちが驚いたり、指さしたり、笑顔を見せる姿が多く見られた。初めは、保育士の問いかけに応じて触れることが中心だったが、活動を重ねるうちに、自分から手を伸ばして試したり、何度も繰り返したりする姿が増えた。また、友だちの様子に気づき、近づいてみたり触れたりしながら共感したり、一緒に取り組む姿も見られた。身近な素材の変化に、手で触れたり、聞いたりして五感を使って確かめる姿があり、思わず「おお！」と声を出す子や、じっと観察する子、変化を保育士に教えてくれる子など様々な反応が見られた。保育士は子どもたちの表情や仕草に寄り添い、「どうなるかな？」と問いかけたり、「すごいね」「不思議だね」など言葉で共感したりしながら見守り、やりたいことを尊重しながらサポートした。また、道具の使い方を示したり、手を添えたりして、子どもたちが楽しく取り組めるように環境も整えた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

今回の活動を通して、子どもたちは言葉での表現は少なくとも、驚きの表情を見せたり、指差して伝えるなど、五感を通して素材の変化に興味を示していることに改めて気づいた。子どもたち一人ひとりの反応や関心は異なるが、それぞれが素材の変化や不思議を楽しみ、夢中になって取り組む姿が見られた。また、活動を繰り返す中で、自分から進んで触れたり、友だちの様子を見たりするなど、主体的に関わろうとする姿が増えていった。保育士は子どもたちのちょっとした表情や仕草に丁寧に寄り添いながら、必要に応じて声かけや援助を行い、温かく見守った。さらに、友だちの反応に気づいた時には一緒に喜びを共有し、関わりを広げる声かけを行うことで、子どもたちは興味をさらに広げながら楽しむ姿が育まれていった。